

あかるく かしこく たくましく

令和6年12月11日 No. 33 文責：校長 佐野紳二

忘れ物を減らすには？ 親野智可等さんのお薦めコラムより・その2

前号 (No. 32) で紹介した親野智可等さんのコラムはいかがだったでしょうか。とても優しい口調で語られる親野さんですが、私のような子育てが上手くできなかったものには、ちょっと耳が痛い話でもあるように思います。きっと保護者のみなさんはそのようなことはないのでしょうかけれど…

さて、今号も前号に引き続き、親野さんのコラムからちょっと短めのコラムを2つ紹介させていただきます。今日の話は「忘れ物」と「子どもの家での過ごし方」の2つになります。今、本校では個別懇談真っ最中ですが、「うちの子は忘れ物が減らなくて…」とか「家にいるといつもダラダラ過ごしていて…」なんていう話は個別懇談の中でもよく聞かれる話かもしれません。そんな悩みに対して、親野さんはどのように言っているか、見てみることにしましょう。

忘れ物を減らすには？

「忘れ物を減らすには？」というのも、私の講演の後によく出る質問の一つです。中には、「自分が困れば懲りて直すだろうから放っておく」という人もいます。でも、私はこのような自業自得方式で直った子を見たことがありません。そもそも、これで直るならとっくの昔に直っていたはずです。もう何度も困ってきているのですから。

実際は、放っておかれた子どもは直るどころかますます忘れ物が増えます。忘れ物をすると授業への意欲もわきませんし、学力にも影響が出てきます。また、忘れるたびに先生や友達に何か言われ、自信をなくしていきます。そして、困っている自分に何の手助けもしてくれない親に対して愛情不足を感じるようになります。



これにはやはり親の手助けが必要です。忘れ物が減るような合理的な工夫をしてあげてください。例えば、学校に持っていく物をあちこちに置かないで、できるだけ一カ所に集めた持ち物コーナーをつくると効果的です。リコーダーは居間、体育館シューズは靴箱、給食袋はダイニング、というようにあちこちに置いてあると忘れる原因になります。

この他にも、絶対忘れられない物は付箋紙に書いて靴の中に貼っておくとか、持ち物をホワイトボードに書き出してチェックするなどもいいですね。習字セットなど細かい物が多い場合は、「持ち物集合写真」を撮っておいて、照らし合わせて確認するようにします。こういう工夫は子どもだけでは無理ですから、親の主導でやってあげてください。

絶対にやって欲しいのは、その日のうちに親が予定帳を見て、ちゃんと次の日の支度ができているか確認することです。これは月並みですが極めて効果的です。もちろん、叱りながらでなく、親子の貴重な触れ合いの時間として楽しみながらやってください。

ぜひ、親の手助けで忘れ物を減らし、子どもをほめてあげてください。子どもは親の愛情を感じますし、自信もついてきます。やり方もわかってきて、だんだん自分でできるようになっていきます。

家でリラックスできて初めて外でがんばれる

小学校の教師をしていたときのことで。家庭訪問や面談で「お子さんは学校でよくがんばっていますよ」と伝えると、家の人から「家ではいつもだらだらしていて、やるべきこともやりません」という反応が返ってくるのがよくありました。みなさんの中にもそう感じている人が多いと思います。でも、家でだらだらするのは極めて当たり前であり、健全なことなのです。大人でも、みんな外でがんばって家ではだらだらしています。外でがんばって家でもがんばるとするのはたいへんです。

子どもも外ではけっこう苦労しているのです。たとえば、日々の授業で学ぶことは、大人にとっては既に知っていることばかりで簡単ですが、子どもにとっては初めて知るような新しいことばかりで、とにかく難しいのです。それが毎日続きます。しかも、つねに先生が見張っていて、サボれば叱られます。授業だけでなく、掃除、係活動、当番の仕事、高学年になれば委員会や児童会の仕事など、あれこれ気を張ってやらなくてはなりません。

休み時間には子ども同士で過ごしますが、これもまた楽しいことばかりではありません。いばる子やルールを守らない子もいますし、馬の合わない子もいます。嫌なことを言われることもありますし、けんかに巻き込まれることもあります。

放課後は、児童クラブ、スポーツ少年団、塾、習い事など、またあれこれ気を張ってがんばらなければなりません。朝に家を出てからこれらの荒波を乗り越えて、やっと家に帰ってくるのです。だらだらしたくもなります。

ですから、家ではリラックスさせてあげてください。それで初めて外でがんばれるエネルギーが充電できるのです。家で親にガミガミ言われ続けていると、充電どころではありません。外でがんばることなどとてもできません。それどころか、ためこんだストレスのせいで友達とのトラブルも増えますし、授業にも集中できません。また、イライラしていると視野が狭くなるので、交通安全の面でもたいへん危険です。



引用元：親力で決まる子供の将来 URL：<http://www.oyaryoku.jp>

別のサイトでは、子どもの忘れ物を少なくするための対策として、以下のようなことが紹介されていました。参考にしてみてください。

引用元：こそだてまっぷ URL：<https://kosodatemap.gakken.jp/life/together/43473/>

- 1 ホワイトボードに持ち物を記入しておき、登校前にランドセルに入れた持ち物をチェックする。入っているものには磁石を貼り付け、すべてに磁石がついていればOK！
- 2 玄関や部屋の扉、学習机など、子どもの目につくところに持ち物を書いたメモを貼っておく。
- 3 帰宅後にやること、朝起きたらやることなどをリスト化しておき、できたことをチェックする。
- 4 前日に用意できるものは前日に用意しておく。
- 5 「教科書や宿題は勉強机の本棚に置いておく」「朝、親が準備した水筒などは玄関に置いておく」など、持ち物の定位置を決めておく。

これらの中から親子で話し合い、できそうなことから取り組んでいくといいかも知れませんね。